

2022 年度宣誓式・入学式 久元喜造市長祝辞

この4月に神戸市外国語大学に入学された皆さん、ご入学おめでとうございます。コロナの中での受験勉強、大変だったと思いますが、その努力が実り、入学を果たされましたことに心からお喜びを申し上げたいと思います。

振り返れば本学の前身である神戸市立外事専門学校が設立されたのは戦後間もない1946年のことでした。そして1949年には大学に昇格をしました。焼け野が原になった神戸で、当時の人々が本学を設立したのは、神戸から国際社会で活躍できる優れた人材を輩出したいという願いだったと思います。そしてその後、願い通りに本学からは国際的に様々な分野で活躍する優れた人材を多数輩出してきました。皆さんもこの中に連なることとなります。

そしてこの間、世界は激動してきました。激動する世界の中で神戸という都市も神戸市民も生きてきました。私たちが学生時代であった1970年代、世界は冷戦下にありました。1962年のキューバ危機を経験した当時の人々は核戦争の恐怖から免れ、冷戦の終結をこい願っていました。そして今から約30年前、旧ソ連の崩壊とウクライナやバルト三国などの独立などにより冷戦は終結をしました。しかし冷戦の終結によって世界は平和になったのでしょうか。より良い自由で公正な世界になったのか、そこは大きな議論のあるところです。冷戦時代、アフガニスタンは平和な王国でした。カンボジアは東西冷戦下の中にありましたけれども、中立を守り何とか平和を維持してきました。イラクやシリアでは頻繁にクーデターが起きていましたが、内戦に至ることはありませんでした。

冷戦終結後、これらの国々では内戦や外国の軍隊の侵入など、大きな苦しみが人々を襲いました。そして今回のロシアのウクライナ侵入によって、地域紛争は世界を巻き込む対立と分断を引き起こしています。私たちは何をすべきだろうか、この現実から目を背けてはいけないということだと思います。そしてどうしてこのような事態になっているのか、なぜ分断や対立が起きているのか、その原因を、学長の田中先生がおっしゃいましたようにしっかりと考察をするという事だと思います。そして異なる価値観やイデオロギー、異なる民族や国家、異なる宗教や文化的背景を持った人々が、どのようにコミュニケーションを交わし相互理解を果たしていくことができるのか、その方策を探るということも重要ではないかと思います。

このことは全ての人々に課せられたテーマであり課題であると思いますが、神戸市外国語大学で学ぶ皆さんにとってはより重要なテーマではないかと思います。ぜひそれぞれの有り様でこれらのテーマと向き合い、それぞれの有り様で行動を起こし、参加をしていただきたいと思います。

本学が熱心に取り組んでこられた模擬国連もその重要な有り様だと思います。本学が用意をされる充実したカリキュラム、プログラムからしっかりと学び、自らを高めていただきたいと思います。そしてポストコロナの中で、必ず訪れるであろうコロナ後の社会、これがどのようなものであるのかをしっかりと見つめ、グローバル社会の中で力強く生き抜いていくことができる人材とし、自らを鍛えていただくことをご期待申し上げます。

最後になりましたが、本学の設置者として、設立団体として、本学の教育・研究環境の充実に全力で取り組ませていただくことをお約束させていただき、お祝いのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。